売上アップのための
直売所出荷ワークショップ
キャベツ

タキイ研究農場　戸丸　祐貴

栽培基礎ポイント

キャベツの基本的な栽培

●播種

発芽適温は15～20℃です。夏まきでは高温による発芽不良が生じることがあるので、トレイ育苗の場合、播種後1～2日は風通しのよい日陰や軒下などで発芽を促しましょう。また、遮光資材を使うのも効果的です。

乾燥による発芽不良のリスクがあるので、播種後の潅水を十分に行います。発芽がそろったら、日当たりのよい場所にトレイを移動します。

●育苗

葉が厚く、がっちりとした健全な均一苗の育苗を目指しましょう。潅水時期と潅水量がポイントになります。潅水は午前中に行い、夕方に表面が多少乾くくらいが目安です。極端に乾かない限り午後の潅水の必要はありません。

↑良苗にするには潅水の時期と水量がポイント。

↑収穫はキャベツの頭を手で軽く押して中身がしまっているか確認する。

↑一般的なキャベツに比べ、小ぶりで丸い形をしているグリーンボール。肉質はやわらかくジューシー。写真は「レンヌ」。

定植1週間前には、外気にあてて順化しましょう。

●圃場の準備

キャベツは排水性、通気性がよい条件を好むため、深耕をして畝を立てます。元肥は目標とする収穫時期によって、施肥量を変えます。年内どりでは全チッソ成分量の3分の2（10㎡当たり125g）、冬・春どりでは2分の1（10㎡当たり100g）が目安になります。リンやカリも同様です。根こぶ病が発生する畑では、土壌殺菌剤を混和して防除に努めましょう。

●栽培管理

基本的な追肥時期は生育初期と結球開始期です。ただし、生育日数の長い冬どりの作型については、葉色や外葉の張り方を見ながら1～2回追加施用し、肥料切れにならないよう順調に生育を進めましょう。

また、追肥と同時に中耕作業を行います。除草、土の通気性の改善などの効果があります。収穫は手でキャベツの頭を軽く押して、中身がしまっていることを確認しましょう。

グリーンボールの春どり栽培

肉質がやわらかく、多汁で甘みのあるグリーンボール「ジャンヌ」や「レンヌ」は生食に向き、新鮮さが求められる直売所に最適です。次の4つのポイントをとらえて来春にはぜひ挑戦し、良品出荷を目指しましょう。

●育苗

2月に播種して、5月下旬～6月中下旬に収穫する作型になります。低温期の育苗になるので、ハウス内の最低温度が10℃を下回らないように管理します。また、十分な日照量を確保することも大切です。平均気温が10℃程度になったら定植を行います。ソメイヨシノの開花が目安となりますが、それより早く定植する場合は被覆資材を用いて、保温する必要があります。

●肥培管理

生育初期の気温が低く、収穫期に高温となる春まき栽培では、元肥主体で全施肥量の3分の2を施肥し、初期生育を促しましょう。追肥は速効性肥料を用いて、玉の充実を図ります。裂球や腐敗のリスクがあるため、収穫時期に肥効が残らないよう注意します。

●病害虫対策

気温の上昇に加えて降雨が重なると、一気に病虫害のリスクが高まります。黒腐病や黒斑細菌病などの細菌類、べと病や菌核病などの糸状菌による病害の発生があります。多湿条件で発生しやすくなるため、降雨後の薬散を心掛けましょう。また菌核病は結球開始期の対策が重要になります。虫害については、発生初期の防除が肝心です。

●収穫

「ジャンヌ」「レンヌ」ともに早生種であり、品質が売りの品種であることから、適期収穫に努めましょう。9分結球程度が目安です。

・資材の活用・

近年の集中豪雨によって、土壌の酸素が不足し、根の生育が止まってしまい、植物の生育が遅れてしまうことがあります。

そのような状況の対策として、圃場準備の際に酸素供給剤「**オキソパワー5**」をあらかじめ混和することで、4～5カ月と長期間にわたって土壌中に酸素を供給し根の酸欠を防ぎます。梅雨や秋雨をまたぐ作型や水田の裏作など、圃場の排水が心配な時におすすめの資材です。

ブリーダー**これがおすすめ！**
秋種ワークショップ

キャベツ

レストランシェフに向けてはこの品種

外食の際、珍しい野菜や体によい野菜を使ったメニューがあれば食べてみたくなりますよね。そこで、栄養豊富で珍しい品種をご紹介します。

サボイキャベツと呼ばれるキャベツをご存知でしょうか。和名では「ちりめんキャベツ」とも呼ばれ、表面に向けて膨れるように縮れた葉が特徴的です。サボイキャベツ「**サボイエースＳＰ**」は定植後約80日で収穫できる多収種で、球色、球内色ともによく、色鮮やかです。このタイプは乾燥や過湿を嫌うため、根を傷めないように注意して、株張りよくスムーズに生育させます。

「**ハイクロップ**」は不結球キャベツとも呼ばれる、キャベツの仲間で、ビタミンやミネラル、食物繊維などを多く含み、近年の健康志向でその注目度が高まってきています。青汁にしたり、肉と炒めたりすることでおいしく召し上がれます。

栽培面では、生育旺盛で暑さ、寒さにも強く非常に作りやすい品種です。栽培方法は一般的なキャベツとほとんど変わりません。外葉が30～40㎝程度になったら収穫適期で、下の葉から収穫します。長期間収穫するためには、定期的に追肥を行い、草勢を維持することがポイントです。

←「サボイエースＳＰ」は葉の繊維がしっかりしているので加熱料理におすすめ。

→栽培しやすく、青汁に最適な「ハイクロップ」。

直売所これが定番品種

「**初秋**」は暑さに非常に強く、秋どりキャベツでは最も早く収穫できる極早生種です。この品種の特長は何といっても食味のよさで、非常にやわらかく、サラダにおすすめです。

「**彩音**」は糖度が高く、冬場のおいしいキャベツとしておすすめです。耐寒性・低温結球性が強く、玉肥大にすぐれます。吸肥力が強いため、追肥主体の管理を心掛けましょう。

また、良質系キャベツでは、ジューシーな食感が特長の「**春波**」がいいでしょう。肥大性、形状安定性ともによく、鮮緑で色つやにもすぐれます。播種期幅が長く、さまざまな収穫シーズンで楽しめます。

←耐暑・高温結球性にすぐれる「初秋」。

↓低温肥大性にすぐれる「彩音」。

←おいしい春キャベツ「春波」。

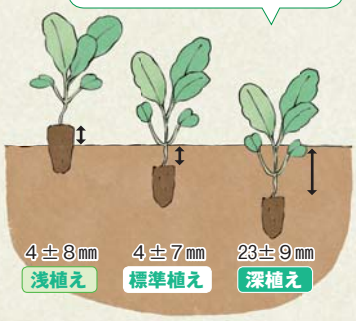
栽培Q&A

Q キャベツの倒伏を防ぐ方法はありますか？

A 栽培しているキャベツが熟期を迎えると、玉の重みで倒れてしまうことがあります。倒れてしまうと、植物体が土表面に密着し、腐敗してしまうことで、せっかく育てたものが台なしになってしまいます。

倒伏対策の一つに深植え定植があり、本葉１枚目の付け根の深さで定植すると、浅植えした場合に比べて、より深いところまで根が発達し、倒伏しにくくなります。定植時のひと手間で倒伏を軽減しましょう。

セル苗の定植深度



「夢ごろも」で栽培を長期間楽しむ！

冬春どりの定番品種「**夢ごろも**」は、８月に播種し、12月～４月上旬まで長期間収穫が可能な品種です。

栽培のポイントは、吸肥力が強いので追肥主体の管理を行います。年内どりの場合には、外葉を作りすぎないように注意する必要があります。また、冬春どりの場合は、中間地では年内に７、８分結球程度に仕上げるイメージです。「夢ごろも」で長期間の安定した出荷を目指しましょう。

↑裂球が遅く圃場貯蔵性にすぐれる「夢ごろも」。

売上アップのための
直売所出荷ワークショップ
ハクサイ

タキイ茨城研究農場　井手　一夫

栽培ポイント

播種・育苗

128穴のセルトレイに、消毒済みの無病の培養土（タキイたねまき培土）を入れ、1粒ずつタネまきします。発芽するまでの1～2日程度はセルトレイを直射日光の当たらない倉庫などで管理し発芽をそろえます。その後は日光が十分当たる風通しのよい場所へ移動します。潅水はできるだけ午前中に行い、夕方にはトレイがやや乾く程度にしておきます。育苗期間の後半（播種後10～14日以降）はできるだけ屋外で育苗し、しまった苗に仕上げます。

畑の準備

あらかじめ、10㎡当たり堆肥20kgと苦土石灰1kgを施しておき、定植の7日前までに元肥として化成肥料をチッソ成分量で150～200g入れ、土とよくなじむように耕します。畝の高さは土質によって変えるようにしましょう。水はけの悪い畑では20cm以上の高さを、水はけのよい畑では10cm程度を目安にしてください。畝幅は140cm、床面は90cmほどの畝を準備します。

定植

若苗定植すると早期に活着して生育初期に根が深く入り、乾燥条件でも水分を吸いやすくなります。ほどよく根が張って苗を抜いても根鉢が崩れないようになれば、定植適期の若苗です。根が回ってしまった老化苗を定植すると、活着不良を起こしやすくなるので注意します。

肥培管理

1回目の追肥は、活着して新しい根が伸び始めるころの定植後7～10日目に行います。10㎡当たりチッソ成分量で30g程度の速効性の化成肥料を株元に施します。その際、除草を兼ねて畝の表面を軽く耕して中耕もしておきます。2回目の追肥は、生育状況を見ながら結球が始まるころに行います。

収穫

収穫適期はハクサイの頭部を押したとき、約1cm程度沈むくらいからが目安です。収穫は玉を斜めに押し倒し、外葉と玉の間に包丁を入れて切ります。

↑トレイの土は乾きやすいので、注意が必要。

←定植適期の若苗。ほどよく根が張り、トレイから抜いても根鉢が崩れない。

↑定植後は乾燥に十分注意し、活着を促す。

↑収穫適期はハクサイの頭部を押さえ、固くしまっていればOK。

資材の活用

2017年10月に2つの台風が日本に襲来し、長雨の影響で多くの露地野菜で生育遅延や収穫不能の事態となり、青果物の価格が長期間にわたり高騰しました。特に根が繊細なハクサイは、過湿条件に弱く、生育の遅れや不結球などその後の生育に大きな影響が出てしまいます。「オキソパワー5」は土壌に酸素を供給する持続型酸素供給剤で、約4～5カ月間の長期にわたって効果が持続し、排水不良の圃場条件の中でも根の吸収力活性、根張りの改善につながります。使用方法は10㎡当たり400～600gを元肥と同時に圃場全面に散布し、よく耕してください。

↑湿害の軽減や根張りの向上に、土壌用酸素供給剤の「オキソパワー5」。

「ほまれの極み」を暖地で、遅まき早春どり栽培するポイント

「ほまれの極み」は従来品種になかった低温結球性と晩抽性を持ち、従来の冬どり品種に比べ10～14日の遅まきが可能で、秋冬ハクサイと春ハクサイの出荷の端境期となる2月下旬～3月上旬に良品出荷のできる品種です。

2月下旬～3月上旬に新鮮球を収穫するポイントとして、越年時を5分結球で迎えるような栽培管理が必要です。従来冬どり品種よりも10～14日遅い播種期の厳守、年内からの不織布のベタがけ利用をおすすめします。近年の天候不順で年内の気温推移は不安定ですが、ベタがけ資材による被覆の活用で低温下での生育調整ができます。また、年明けも被覆を継続すれば結球・肥大を順調に進めることが可能です。

↑2月下旬から3月上旬の端境期でも収穫できる「ほまれの極み」。

↑不織布のベタがけで、低温下でも生育調整をすることができる。

→愛媛県の生産地（2月撮影）。「ほまれの極み」は低温期での結球性にすぐれ抽苔も少ない。

ブリーダー**これがおすすめ！**
秋種ワークショップ

ハクサイ

売上アップにはこの品種

「**ＣＲお黄にいり**」は、根こぶ病とべと病に強いミニハクサイです。密植栽培すると大玉ハクサイ1/4の球重600～700ｇで収穫できます。１回分の料理にちょうどよい大きさで、冷蔵庫の野菜室にぴったりと収まり、カットハクサイに比べ新鮮さが続きます。歯切れがよくほんのり甘みがあるので、中華料理の炒め物や鍋物だけでなくサラダにもおすすめです。栽植株数の目安は従来のハクサイよりも２～2.5倍の密植となる条間25㎝、株間20㎝を基本とします。収穫までの日数は大玉早生品種よりも７～10日程度早く、在圃期間も短いため、連続出荷を狙う場合は５～７日おきに播種期をずらして計画的な播種を行いましょう。

直売所これが定番品種

作りやすさとおいしさを兼ね備えた品種としておすすめが「**黄ごころ85**」です。近年冬どり栽培では、多雨や年内の冷え込みの早さなどにより、不結球や小玉などの問題が発生しやすくなっています。「黄ごころ85」は低温下での結球性と肥大性にすぐれ播種期幅が広く、収量性の高い品種です。食味についてもうまみと甘みに富み、葉質がやわらかくおいしい品種です。１月以降の収穫期を狙う場合は、寒さ傷みを防ぐために、球頭部をひもなどで縛る結束作業を行ってください。霜に２～３回あたり外葉がしんなりとやわらかくなった時が、結束のタイミングです。

↑使い切りサイズのミニハクサイ「ＣＲお黄にいり」。べと病、根こぶ病に強く育てやすい。

↑サクサクと歯切れがよく、ハクサイの甘みを感じるサラダがおすすめ。

↑球内色は鮮黄色で、肉質はやわらかく甘みがある「黄ごころ85」。

↑１月以降の収穫では、球頭部を結束して寒さ傷みを防ぐ。

栽培Q&A

Q 台風や強い雨にたたかれたときの対策は？

A 事前の対策が可能であれば圃場の排水確保とサンサンネットや寒冷紗などでトンネル状に被覆し、風雨による被害を防ぎます。結球前であればベタがけでも構いません。裾はバタつきを抑えるようにUピンなどで固定しましょう。

台風後、大雨により浸冠水した場合は、早急に排水を図ります。植物体が傷ついた場合は殺菌剤の散布を行い病害防除に努めましょう。その後、表面が乾いてきたらかたく固まる前に条間や通路を軽く中耕し、根張りの回復を図ります。併せて微量要素入りの液肥の葉面散布を行います。

「勝春」を使った春どり栽培のポイント

↑５月以降の初夏どりができる「勝春」。抜群の耐病性をもち、生育旺盛。

春どり栽培は育苗期間～生育前半が低温条件、生育の後半は上昇気温とともに急激に生育が進むため、早期抽苔、生理障害、病害の発生など栽培の難しい作型です。

このうち、中間地での４月出荷を狙う早どり栽培では抽苔や芯腐れ症の発生が最も大きな問題となります。一方、収穫期に急激な気温の上昇を見せる５～６月どりは、軟腐病・尻腐れ病などの病害や縁腐れが発生しやすい時期となり、短い期間で特性の異なる品種が必要となり、播種期や収穫期に応じた品種選びが特に重要になります。

「**勝春**」は軟腐病・尻腐れ病などの腐敗性病害に強く、生育後半に気温が急激に上昇する中間地５月以降の収穫に適しています。また、草勢が強く大玉で収量性が高い点、上昇気温下でも比較的ゆっくり生育が進み在圃性が高い点から加工業務向けとしてもおすすめです。

晩抽性に関しては「**きらぼし65**」並で、早どりでは芯腐れ症の発生が懸念されるため、中間地の４月出荷を狙う早どり栽培には適しません。

売上アップのための
直売所出荷ワークショップ
ホウレンソウ

タキイ長沼研究農場　神田（かんだ）　拓也（たくや）

栽培ポイント

排水・保水のよい土づくり

ホウレンソウは直根性が強く、乾燥や過湿に弱いため、耕土が深く排水性と保水性のよい圃場（ほ）が適します。計画的に完熟堆肥（たいひ）を施肥することで、有機質に富んだ通気性のよい土づくりを心掛け、堆肥はタネまきの1カ月以上前に施し、よくなじませておきます。ホウレンソウは過湿に弱い作物なので、水はけの悪い畑では高畝にし、排水のよい畑を準備しましょう。

タネまき～水管理～

発芽がきれいにそろうと栽培の8割は成功です。ポイントは、発芽まで適切に土壌の湿度を管理すること。圃場が乾燥している場合はあらかじめ潅水を行ってから整地をしましょう。また、乾きムラが出ないようできるだけ凹凸のない播種床をつくり、深さ1㎝の播種溝に条（すじ）まきで播種をします。播種後は均一に覆土・鎮圧をし、潅水は表面に水が浮かばない程度に十分行います。表面が乾くようであれば適宜潅水し、発芽まで適切な湿度を保ちます。高温期は立枯（たちがれ）病防止のため、発芽後本葉4枚までは潅水を控えます。

タネまき～温度管理～

発芽をそろえるもう一つのポイントは適切な温度管理です。最適発芽温度は20℃ですが、30℃を超えるようだと発芽不良を起こしてしまうので注意が必要です。逆に低すぎても発芽まで時間がかかり発芽ぞろいも悪くなります。

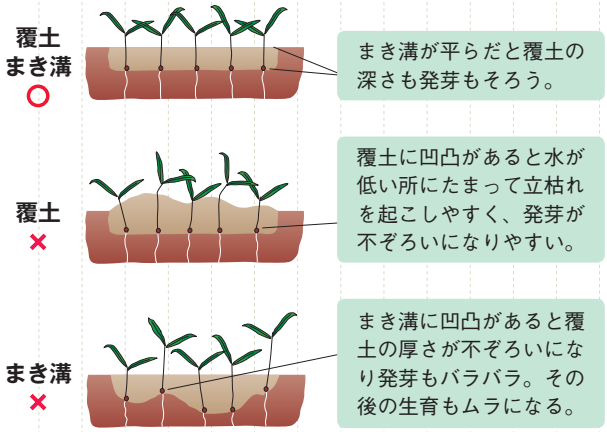
高温期の播種には遮光資材の「タキイ涼感ホワイト」や「タキイアイスマルチ」で地温を抑制し、低温期の播種には「テクテクネオ」など不織布（ふしょくふ）のベタがけで地温を確保することで発芽ぞろいが向上します。

適切な肥培管理

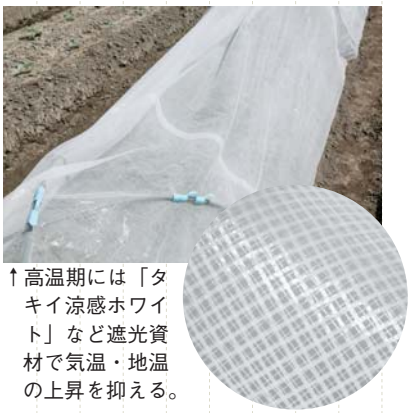
見た目にもおいしい色つやのあるホウレンソウを収穫するために、適切な肥培管理で生育後半の肥切れを防ぎましょう。年内収穫の場合、10㎡当たりチッソ成分で200g、生育期間の長い1～2月どりでは250gを目安に施します。地力の低い圃場では、本葉4枚展開したころに10㎡当たりチッソ成分で30g程度の速効性化成肥料を条間に追肥し、生育を順調に進めます。

収穫

ホウレンソウの適期収穫は草丈25㎝前後です。収穫遅れになることが多いので、一度にたくさんまかず、必要な分だけ時期をずらしてまく「段まき」をすると、安定して連続的に収穫ができます。



↑一斉に発芽させることが重要。


↑高温期には「タキイ涼感ホワイト」など遮光資材で気温・地温の上昇を抑える。

↑低温期には不織布のベタがけで初期生育を促す。

・私のおすすめ栽培工夫・

寒じめ栽培で甘みと栄養価UP！

「冬ごのみ」や「弁天丸」におすすめの栽培方法です。ホウレンソウは寒さにあたると、糖分や栄養分を体内に蓄え寒さから身を守ります。この性質を利用して、おいしいホウレンソウを収穫する方法が“寒じめ栽培”です。年内までに草丈20㎝まで生育を進めます。場合によってはトンネルや「テクテクネオ」などの不織布をかけて生育を進めます。その後トンネルを開放し、低温に2～3週間さらします。十分低温にあて、甘みがぐっと増したホウレンソウは格別です。

↑「寒じめ栽培」
地温9℃を境にして、根からの水分給水量が減少。じわじわと甘みが増す。

ブリーダー **これがおすすめ！**
秋種ワークショップ

ホウレンソウ

売上アップにはこの品種

NEW!

↑アクが少なく、甘みが強い「冬ごのみ」はイチオシ品種！

←サラダがおすすめ。ホウレンソウの甘みを実感できる。

おいしくて、特徴的な２品種をおすすめします。右頁「私のおすすめ栽培工夫」の寒じめ栽培もぜひお試しください。

新品種の「**冬ごのみ**」は、とことん“食味”にこだわった品種です。ホウレンソウ特有の口に残るアクが極めて少なく、甘みが強いので、野菜が苦手なお子様でも食べやすくおいしい食味です。また、葉に欠刻が深く入るユニークな葉形も特長で、見た目にもほかと違うホウレンソウとしてアピールができます。生育は比較的じっくりしているため、年内までに生育を進めておきましょう。寒さにあたり甘みの増した「冬ごのみ」は絶品です。

ファイトリッチシリーズの「**弁天丸**」は、低温下でじっくり生育し、甘みを蓄積させるため冬どりに最適です。また、「ルテイン」という機能性成分をほかのホウレンソウよりも豊富に含んでいます。機能性成分のアピールで差別化を行い、売り上げアップにつなげてください。葉色が濃いため荷姿の美しさも目を引く特長です。

→ファイトリッチシリーズで栄養価も抜群！

直売所これが定番品種

生育旺盛で作りやすい豊作型の品種をおすすめします。

「**牛若丸**」は、安定した量を長期間出荷するための定番品種としておすすめです。葉は大葉で葉色が濃く、軸もよく太るため、ボリューム抜群で質の高いホウレンソウが収穫できます。草勢が強いため栽培がしやすく、秋～初春まで幅広くまけることも魅力です。またホウレンソウの**重要病害であるべと病にも強い**ため、安心して栽培することができます。

「**オーライ**」は生育が旺盛で、土質を選ばず秋～冬の幅広い作型に適応するため栽培が容易なロングセラー品種です。葉が肉厚でやわらかく、アクが少ないためお浸しやバター炒めでおいしくいただけます。

↑定番品種の「牛若丸」は株張りのよい秋冬どり多収種。

↑在圃性があり、秋から春の幅広い作型で栽培できる。

栽培Q&A

Q ホウレンソウの収量を上げたいのですが、どうしたらよいですか？

↑ホウレンソウは直根性で根系の広がりが旺盛。有機質に富んだ土づくりを心掛ける。

A まず、品種により最適な播種期が設定してありますので、そちらを守ってください。次に、適切な株間で栽培しましょう。栽植密度は生育に大きく影響を与えます。株が張った良品を出荷するには、広めの株間がおすすめです。条間は15～20㎝、株間は、生育が進みやすい春・秋では５～７㎝、生育がじっくりしている冬どりでは３～５㎝が目安です。最後に、健全な根を張らせましょう。そのために有機質に富み、保水性のよい土づくりを心掛けましょう。

春～夏どりの端境期に提案

「**晩抽サマースカイ**」はホウレンソウの栽培が難しい春～夏どりでも、抜群に発芽がよく、抽苔が安定しています。

また、比較的暑さに強く欠株が少ないため計画的な出荷が可能です。草姿が極立性で、軸がしなやかなため収穫・調製も容易です。栽培中はできるだけ風通しをよくし、乾燥させすぎないように適宜、潅水を行いましょう。

←立性で根切りや収穫作業が容易。

売上アップのための
直売所出荷
ワークショップ

レタス類

タキイ茨城研究農場　新井（あらい）　真琴（まこと）

シャキシャキした歯切れよい食感のレタスは、サラダやサンドイッチなどの生食用として欠かせない野菜の一つです。新鮮でとれたてのレタスを直売所に並べ、活気ある売り場を演出してみませんか？　今回は、家庭菜園でも比較的栽培がしやすい秋から冬どりのレタス栽培についてご説明します。

秋～冬どりの玉レタス栽培ポイント

播種・育苗

200穴の根巻防止トレイ（白色）に「タキイセル培土ＴＭ－１」などの園芸用培養土を入れ、１粒ずつタネをまきます。少量の育苗であれば６㎝程度のポリポットに２～３粒程度をまき、間引きして育苗するのもよいでしょう。レタスの種子は光を好むため、覆土はタネが隠れる程度に薄くし、発芽まで土の表面が乾かないように注意します。発芽は20℃前後が適温で、25℃以上になると発芽率が低くなる場合があります。発芽するまでは風通しのよい日陰に置いてください。発芽後は日当たり、風通しのよい場所に移して育苗します。

定植・肥培管理

本葉が４～５枚になり、トレイやポットから抜いても根鉢が崩れず、ほどよく根がまわったころが定植時期の目安です。元肥のチッソ成分は10㎡当たり１００～１５０ｇを目安に、厳寒期どりでは２００～２５０ｇと増量します。前作の残肥や土質などを考慮して調整してください。また、保温や保湿、病害防除や除草効果がある黒マルチの利用をおすすめします。

畝幅は60～90㎝、条間・株間はともに30㎝程度の２～３条で、育苗の土がちょうど隠れるぐらいの深さで植えましょう。定植後は潅水を行いスムーズな活着を促します。

トンネル管理

レタスは結球が進んでくると、霜や寒さに弱くなります。11月以降の霜が降りる時期になってきたら、防寒や生育促進のためにビニールや不織布（ふしょくふ）でトンネル被覆をします。日中はトンネル内が25℃以上にならないよう換気をします。

収穫

玉レタスの収穫の目安は、玉を軽く押して弾力のある状態が適期です。中が詰まってかたくなり過熟になると苦みが増してしまうため、取り遅れないよう早めの収穫を心掛けます。

病害虫防除

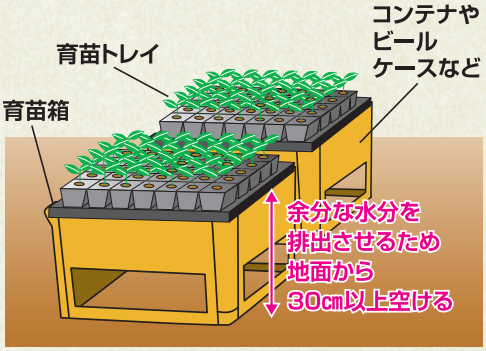
夏から秋にかけてはタバコガの幼虫やアブラムシなどが発生しやすいので、定植時には農薬登録のある粒剤をあらかじめ圃（ほ）場に混和しておくとよいでしょう。また、マルチ栽培をすることで、病気の原因となる泥はねを防ぎます。台風など風雨で葉が傷んだ場合は、速やかに殺菌剤の薬剤散布を行ってください。

↑レタスは結球すると耐寒性が弱くなる傾向があるので、霜が降りるようになったらトンネル被覆をして防寒する。

栽培Q&A

Q　夏場の育苗のコツを教えてください。

A　レタスの育苗には適切な水分管理が重要です。軟弱徒長を防ぐために、潅水は午前中に行い、夕方には土の表面が乾く程度の水の量にとどめます。また、余計な水分を排水できるように、コンテナやビールケースなどを利用して地面から30㎝以上浮かせて置くこともガッチリした苗作りにつながります。



・ブリーダー私の好きな品種・

鮮やかなワインレッドの葉の色が特徴的なリーフレタス「ワインドレス」は、緑が主体の直売所の野菜売り場をとても華やかにしてくれます。コンパクトな草姿を生かしてプランターでも栽培が可能で、ベビーリーフから長期間楽しむことができます。

←アントシアニンを豊富に含む、新しいタイプのレッドリーフレタス「ワインドレス」。

ブリーダー**これがおすすめ！**
秋種ワークショップ

レタス類

↑「サウザー」は気温による玉の形状の乱れが少なく、球尻は滑らかでまとまりがよい品種。

↑「マリア」は外葉数が比較的多いため、葉傷みに強い。

↑「スターレイ」は形状の安定性にすぐれるので、気温の変化が大きい春どり、秋どりの栽培に適する。

売上アップはこの品種

比較的高値で取り引きされる端境期や高温期の栽培には「**サウザー**」「**マリア**」「**スターレイ**」がおすすめです。中間地での秋どりが始まる作型（８月上中旬まき10月中下旬どり）では、「サウザー」が高温でも比較的形状の乱れが少なく、結球性も安定しています。

「マリア」は外葉が比較的多いため、風雨による葉傷みに強い品種です。高温によるトウ立ちが比較的遅く玉肥大にすぐれるので、８月末～９月中旬にタネまきし、11～12月に収穫する作型に適します。

きれいな玉に仕上がり、形状が安定する「スターレイ」は、気温の変動が大きい秋どり、春どりの幅広い作型で栽培できます。９月上中旬まき12月どり、または12月～１月まきで４月どりの作型に適します。

直売所出荷これが定番品種

「**極早生シスコ**」は高温期の結球性と耐暑性にすぐれ、８月中下旬まきで10～11月に収穫します。定植後35～40日程度で収穫できる極早生種です。一方、「**シスコ**」は低温期の結球性と耐寒性にすぐれます。９月まきで11～12月に収穫、または10月まきでトンネル被覆をして１～３月にかけて収穫します。葉は肉厚で、きれいな玉にそろいます。

「**レガシー**」は草勢が旺盛で耐寒性が強い品種で、９～10月まきでトンネル被覆をして１～３月にかけて収穫します。ゆるやかに結球し、大玉に仕上がります。

↑高温干ばつ時でも結球が良好な「極早生シスコ」。

↑低温結球性にすぐれる「シスコ」。

←冬どりで形状安定性にすぐれる「レガシー」。

ロメインレタス品種の使い分け

↑トレンド野菜として注目のロメインレタス！生食でも、加熱調理にも適する。写真は「ロマリア」。

ロメインレタスは玉レタスと比べ、葉に厚みがあり食べごたえのある食感で、ほのかな甘みと苦みがあります。「シーザーサラダ」などの生食のほか、炒め物などにも適しています。

春～初夏どり、秋～晩秋どりの、より低温肥大性が求められる作型では「**ロマリア**」が適しています。収穫時には軽く結球し、中の葉がやわらかくなり甘みが増します。また、低温期の肥大性がよく、収量性にすぐれる「**コスレタス**」もよいでしょう。

夏どり、秋どりの気温が高い時期には晩抽性と耐暑性がすぐれる「**晩抽ロマリア**」をおすすめします。葉の枚数が多く、肉厚でパリッとした食感になります。

ロメインレタスを上手に作るポイント

❶施肥

ロメインレタスは立性で玉レタスより１～２割程度密植できます。施肥量も２割程度増やすと株張りがよくなります。条間30㎝、株間25㎝、施肥量はチッソ成分で10㎡当たり１４０～１８０ｇが目安です。

❷圃場を適湿に保つ

圃場の急激な乾湿の繰り返しは根傷みを起こし、チップバーンの発生につながるため、圃場の排水をはかり、干ばつが続くようであれば適宜潅水を行います。

❸適期収穫

上部の葉の空間が５００円玉程度の大きさまで閉じてきたころです。過熟になるとチップバーンの発生や形状の乱れにつながるため、適期収穫を心掛けましょう。

売上アップのための
直売所出荷ワークショップ
ダイコン

タキイ茨城研究農場　辻田　卓

栽培ポイント

土づくりと肥培管理

ダイコンの栽培には排水性と保水性のよい土づくりは欠かすことはできません。

播種する1カ月前に完熟堆肥を10㎡当たり20～30kg程度、pHの調整に苦土石灰を10㎡当たり600～800g施用しよくなじませます。生育初期から後半まで肥効が続くように元肥を中心に化成肥料（N：P：K＝8：8：8）で10㎡当たり100～150gとしますが、「紅三太」は2割ほど少なくし、「冬どり聖護院」「おふくろ」の場合は150～200gとします。

生育中期以降、低温で生育緩慢な時は追肥を50～60g施用します。畝の高さの目安は排水のよい畑で約10cm、悪い畑で20cm以上の高畝にします。

タネまきと間引き

タネまきは条間40cm、株間25cmが一般的ですが、「冬どり聖護院」「おふくろ」は葉が旺盛なので株間を30～35cm、「紅三太」は条間、株間共に15～20cmを目安にするとよいでしょう。深さ1・5～2cm、1穴当たり3～4粒まきにします。播種後は発芽不良にならないように、こまめに潅水を行います。

近年ゲリラ豪雨も多く、生育初期に痛めつけられるとその後の生育に大きく影響します。共育ちをさせることで被害の軽減を期待できます。間引きは、天候に合わせて本葉1～2枚ごろ1カ所に2本、本葉4～5枚ごろに1本を目安とします。間引き後は中耕、生育状況によって追肥を行うのがよいでしょう。

タネまきから間引きの期間、白寒冷紗を用いて被覆することで、乾燥を抑制し発芽不良を防ぐとともにゲリラ豪雨によって子葉が叩かれ傷む被害を軽減することもできます。

↑元肥をよく混ぜて土になじませておく。根の生長点が土塊や肥料にあたると又根の原因になるので注意する。

↑1穴に3～4粒まきとし、共育ちさせる。

↑適切な間引きで生育を促進。間引き後は中耕し根への酸素供給を行う。追肥は生育状況をみながら畝間、もしくは条間に施用する。

資材の活用

台風や天候不順が続くと生育が緩慢になってしまいます。「ヨーゲンアクセル」などの葉面散布剤を用いて、傷んだ葉の早期回復を図ることで根の発根を促します。いち早く根の肥大を回復させることが重要です。

↑葉面散布肥料の「ヨーゲンアクセル」。葉から養分を吸収させ、草勢の回復を図る。

栽培Q&A

Q 生育が緩慢になったので、追肥をしましたが回復せずに失敗してしまいました。

A 葉色が正常な場合、肥料ぎれではなく、降雨による畝のしまりや過湿が原因で根の酸欠が起きていると考えられます。こまめな中耕を行うことで畝表面を柔らかくし、根に酸素が十分届くように管理することが効果的です。中耕は深くすると根を切り逆効果になります。慣れていない方は通常除草に使う「けずっ太郎」などを用いると畝表面を容易に中耕することができるでしょう。

↑軽くて使いやすい「けずっ太郎」。土の中に押し入れ、畝表面を柔らかくし、根に酸素が届くようにする。

※「けずっ太郎」の取扱いについてはタキイネット通販（http://shop.takii.co.jp）をご覧ください。

ブリーダー **これがおすすめ！**

秋種ワークショップ

ダイコン

直売所これが定番品種

直売所でほかと差別化しリピーターを獲得するには、極上の食味をもつダイコンのリレー出荷がおすすめです。９月中下旬まき→11月中旬～12月どりの「**ＹＲくらま**」は、みずみずしく歯切れがよい肉質、煮食にすると、とろけるようなやわらかさが特長です。

９月下旬まき→12月～１月どりの「**耐病総太り**」は耐寒性にすぐれ、ス入りが遅くほかの品種では絶対に真似できない甘みとうまさをもち、肉質は緻密で生食はもちろん、すべての用途に幅広くご利用いただけます。また暖かい地域では「耐病総太り」同様に食味のよい９月下旬～10月上旬まき→１～２月どりでより耐寒性の強い「**千都**」を使えばさらに出荷を伸ばすことができます。

３品種によるリレー出荷　（中間・暖地）

	播種期				収穫期																			
	8				9				10				11				12				1				2			
ＹＲくらま																												
耐病総太り																												
千都																												

売上アップにはこの品種

肉質のよい「翼シリーズ」を用いれば、安定した連続出荷をすることができます。耐暑性があり萎黄病や軟腐病、生理障害にも強い８月下旬～９月上旬まきの「**夏の翼**」を用いれば、大根が多く陳列される秋冬時期よりも早い時期からの出荷が可能になります。また秋冬時期には、９月上中旬まきの「**秋の翼**」がおすすめです。肌がきれいで太りよく、根のそろいが抜群なのが特長です。

←肥大性、そろい性にすぐれ育てやすい「秋の翼」。

形や色で差別化を狙う

←煮食にすればとろけるようなおいしさの「おふくろ」。

古くから愛用されている丸ダイコンの「**冬どり聖護院**」や中ぶくら型の「**おふくろ**」がおすすめです。どちらも寒さに強く、特に煮食にすると青首ダイコンでは真似できない食感とおいしさをもちます。

→鮮やかな赤色が目をひくミニ赤ダイコンの「紅三太」。

↑「紅三太」の桜漬とサラダ。みずみずしく食感も楽しめる。

また昨年発売したミニ赤ダイコンの「**紅三太**」も人気です。長期出荷可能（秋冬どり、春～初夏どり）で特に彩りの少ない春の直売所に最適です。草姿はコンパクトで密植が可能な品種です。

↑作りやすい短形ダイコンの「三太郎」。株間を変えることで収穫サイズを調整することができる。

同じく長期出荷できる「**三太郎**」もリピーターを期待できます。株間を変えることにより、根長を調節することも可能なので出荷の幅が広がります。

売上アップのための
直売所出荷
ワークショップ
ニンジン

タキイ茨城研究農場　筒井（つつい）　大地（だいち）

栽培ポイント

ニンジンの栽培では、発芽をそろえ、初期生育を順調に進めることが良品多収の最重要ポイントです。欠株や発芽にバラつきがあると収穫物の大きさも不ぞろいとなり、収量や秀品率に影響します。

畑の準備

ニンジンの生育には耕土が深く、有機質を多く含み、排水・保水のよい土壌が適しており圃場（ほじょう）の選定や土づくりがとても大切です。保水性の悪い畑では土壌の水分が均一にならず、発芽や生育の不ぞろいにつながります。排水のよい畑を選定し、緑肥栽培や堆肥（たいひ）施用を行い有機質に富んだ土づくりを行いましょう。

播種

畑が乾いた状態で畝立てや播種を行うと、その後の潅水では畑の深部まで水が十分に届きません。深部が乾燥している状態では表層の水分量がムラとなり、発芽がバラついたり直根がスムーズに伸びず短根や又根の原因になります。整地を行う数日前に畑に潅水を行い、適度な湿度を保ち畝立てや播種をすることが一斉発芽やスムーズな初期生育につながります。覆土は夏まきでは5㎜、春まきでは1㎝を基本とし、乾きやすい土壌では+5㎜とやや厚めにしましょう。

潅水

ニンジンの播種期シーズンである8月は蒸散量が多いため、晴れが続いた場合は3、4日おきに深部までしっかり保水される程度の潅水が理想です。一度に大量の潅水を行うと表層が流れたり固まってしまうため、ゆっくりと時間をかけて潅水しましょう。夏まき栽培の場合は5～7日、春まきの場合は2週間以内に発芽をそろえるのが理想です。

間引き

コート種子の普及と播種機の精度向上で間引きは行われなくなってきていますが、小面積で栽培する場合は多粒播種で間引きをした方が発芽、初期生育が安定します。本葉3～5枚時期に株間7～12㎝程度に間引きます。

中耕・培土

発芽後は畝間、条間を中耕し通気性をよくすることで初期生育を促します。株元に軽く土を寄せることで胚軸が守られ肩部障害の発症を抑えることができます。その後、本葉7～8枚程度で培土を行います。肥大期に入る準備となるため、土寄せにより青首を防止し、追肥もこのタイミングで行います。

↑耕土が深く、排水・保水性の高い土づくりが栽培のポイント。

↑播種してから発芽するまでに土壌を乾燥させないこと。

↑間引きを行いスムーズに生育させることが大切。

おすすめ資材

条間の中耕には「**手押式畑作用中耕機たがやすT-10**」がおすすめです。多数の爪がきめ細かく均一に中耕・除草し作物の根に活力を与えます。

←中耕、除草、溝きりが一度に可能。

栽培Q&A

Q ネキリムシ対策を教えてください。

A 発芽後のネキリムシ対策に「**ネキリエースK**」がおすすめです。防除困難なネキリムシ老齢幼虫にも高い効果を示します。土壌表面や作物の株元にまくだけなので害虫防除が簡単にできます。すぐれた誘引作用で虫を引きつけます。

↑粒タイプで使いやすい。株元にまくだけで防除ができる「ネキリエースK」。

※文中で紹介の資材「手押式畑作用中耕機たがやすT-10」の取り扱いについては、タキイネット通販（http://shop.takii.co.jp）をご覧ください。

ブリーダー **これがおすすめ！**
秋種ワークショップ

ニンジン

ファイトリッチで売り上げアップ！

「**オランジェ**」はフランス語で「オレンジ」を意味するように、外皮から芯まで濃いオレンジ色で、機能性成分であるカロテンを従来品種の約1.5倍も多く含んだファイトリッチ品種です。葉の耐寒性や耐裂根にすぐれ、冬の寒さにあたることで甘みも増しておいしくなります。

「**京(きょう)くれない**」はリコピンとカロテンの成分をバランスよく併せ持つファイトリッチ品種です。柿のような甘みがありジュースのほか、肉質が緻密(ちみつ)で煮くずれしにくいため煮物やニンジンしりしりになどさまざまな用途に使えます。

両品種ともに生育期間が長いため生育後半まで葉を健全に保つことがポイントになります。そのため、肥効が長く続くように追肥型の肥培管理に努めます。台風前後のタイミングでは黒葉枯れ防除の薬剤散布も行いましょう。

←カロテン豊富な「オランジェ」。雪下での貯蔵も可能。

←赤色ニンジンの「京くれない」。生食から加熱調理まで幅広く活用できる。

↑「京くれない」のしりしりでリコピンとカロテンを補給。

直売所、家庭菜園の定番品種 タキイのおいしいニンジンシリーズ！

サラダや野菜スティック、キャロットラペなど生でもおいしいニンジンが「**Dr.(ドクター)カロテン5(ファイブ)**」です。家庭菜園や直売所でリピーターの多い人気種で、みずみずしく甘みが強いのが特長です。葉が旺盛になりやすいため肥料を抑えた栽培にすることと、早太りするため年内までに収穫することが上作のコツです。

煮込み料理には、外皮から芯まで均一に色が濃い「**恋(こい)ごころ**」がおすすめです。肉質が緻密なため、火を通しても色が薄くならずオレンジ色が料理に映えます。12月～1月どりで尻のよくつまった円筒形状になります。「Dr.カロテン5」と同様に減肥栽培に適し、トウ立ちが遅いため春まき栽培も可能です。ニンジン臭さが少なく、パリッとした食感でさまざまな料理に合うのが「**向陽(こうよう)二号**」です。幅広い土壌に適し、しみ症に強いため安定した出荷が見込めます。生育後半まで葉を健全に保つことがポイントになりますので、元肥や追肥をやや多め(1.2～1.5倍)にし、その後は葉面散布で対応します。

↑円筒形で先までよく太る「恋ごころ」。

↑キャロットラペで食卓も華やかに。

ジュース・加工用にはとにかく大きくなる「グランプリ」

「**グランプリ**」は、およそ120日で根重300gになる、そろいのよい黒田系大型種です。大きなニンジンは収量性が高いだけでなく、洗浄や皮むきの手間が省けます。根色は芯まで鮮やかな濃紅色で、みずみずしく甘みに富んだ食味です。水分含量が多く搾汁が多くとれるためジュースに最適な品種です。ニンジンを大きく栽培するためには株間を8～12cmと広めにすることが条件となります。また堆肥や緑肥を利用することで生育後半まで肥効が持続するような土づくりが良品を生産するポイントです。

←大型ニンジンの「グランプリ」。株間を広めに栽培するのがポイント。

売上アップのための
直売所出荷ワークショップ
タマネギ

タキイ研究農場　馬場　彰

栽培基礎ポイント

播種～育苗

タマネギ栽培は、均一で良質な苗を仕立てること、すなわち「適期播種」と「発芽をそろえる」ことが上作への第一歩となります。

タマネギは適期より早く播種すると大苗になり、トウ立ちや分球が生じる恐れがあります。逆に播種が遅くなると小苗になり、球の肥大が悪くなってしまいます。作型表を確認し、お住まいの地域に合った播種を心掛けるようにしてください。

発芽をそろえるためには、床面を均平にすることが重要です。床面に起伏があると覆土や潅水にムラが出やすく、発芽や生育に差が生じてしまいます。

苗床は10㎡当たりチッソ成分で70～100g施し、畝の高さは15cm程度にします。

播種は管理作業のしやすい条まきがおすすめです。深さ8mm程度の溝を8～10cm間隔でつけ、タネを約1cm間隔でまきます。覆土は溝が埋まる程度とし、その上にもみ殻などの有機物を被せ、しっかり潅水します。特に、育苗初期は適湿を保ち、ていねいに潅水します。

苗が込みあっているところは、本葉2枚目が見えるころまでに間引きし、間隔をそろえておきます。育苗期間は約55日、葉枚数3～4枚、長さ25cm程度の苗を目標に育苗します。

畑づくり～定植

堆肥や緑肥などの有機物は、少なくとも定植の約1カ月前に施しておきます。肥料は10㎡当たりチッソ成分で約200～250gです。極早生種や早生種は、マルチ栽培を基本に全量元肥とします。貯蔵種では、全チッソ量の半分を元肥で投入します。

定植は、葉の分岐点が埋まらないよう、深さ2～3cm程度で植えます。苗取りの際、健全な苗を選び、できるだけ根を切らないようにすることが、活着をスムーズにするポイントです。

追肥

貯蔵種の追肥は、1月上旬、2月上旬、3月上旬の3回に分けて行います。1月の追肥は、根張りを促進して耐寒性や葉数分化を促し、2月は抽苔を抑える効果があります。3月の追肥は「止め肥」と呼ばれ、収穫期や食味、貯蔵性に影響するため、遅れないよう注意してください。

収穫

収穫は、倒伏そろい1週間後くらいの、晴天の日を見計らって行います。貯蔵中の腐敗を抑えるため、畝の上で1～2日間天日干しをして、乾燥させてから取り入れましょう。

↑覆土した上に、もみ殻などの有機物を被せ、しっかり潅水する。

↑葉枚数3～4枚、長さ25cm程度の苗が定植適期。

↑倒伏そろい1週間後くらいの晴天の日に収穫する。

栽培Q&A

Q 天候不順が続き、十分な天日干しができません。どうすればよいでしょう。

A 中晩生や晩生品種の収穫時期は、ちょうど梅雨の初めと重なることが多く、晴れ間をねらって急ぎ収穫することも少なくありません。そのような場合、雨よけハウスなどに広げ、乾燥させることで、天日干しと同様の効果が得られます。また、大型の送風機などで通風乾燥させることも効果的です。

資材の活用

「マルチパートナーα」は、「スパート」や「ソニック」など、タマネギの早出し栽培に挑戦したいけれど、マルチ張りが面倒…という方におすすめの資材です。

本体にマルチをセットし、畝に沿って引くだけで、一人で簡単にマルチ張りができます。アルミ製で軽く、作業やもち運びに便利です。

←「マルチパートナーα」は幅90～150cmに対応。一人で簡単にマルチが張れる。

ブリーダー **これがおすすめ！**

秋種ワークショップ

タマネギ

売上アップはこの品種

「**ケルたま**」は機能性成分ケルセチンを多く含み、おいしさを兼ね備えた晩生の品種です。生食には不向きですが、加熱調理することで、本来の甘みが引き立ちます。

極早生品種の「**スパート**」は、早出し用としておすすめの品種です。まだ市場にタマネギが少ない時期の出荷となるため、比較的高値がつきやすく、売り上げに貢献できること間違いなしです。

↑「ケルたま」は加熱調理することで本来の甘みが引き立つ。

←生育旺盛で作りやすい極早生種「スパート」。

直売所これが定番品種

「**ターボ**」と「**ネオアース**」は、同じ貯蔵種ですが収穫時期をずらすことで、長く出荷できる定番品種です。

「ターボ」は、中生の貯蔵種としては早熟で、肥大性のよい作りやすい品種です。切り玉出荷から年内までの貯蔵に適します。

中晩生の「ネオアース」は貯蔵中の萌芽（ほうが）や尻部の動きが遅く、長期貯蔵に向く品種です。玉は球形で皮色が濃く、色つやがあり、ほかの品種と一線を画します。

←「ネオアース」はそろい・しまりとも良好で皮色が濃く、つやがあり美しい。

→病気に強く、切り玉と年内までの貯蔵用に適する「ターボ」。

セットタマネギ「シャルム」の栽培に挑戦！

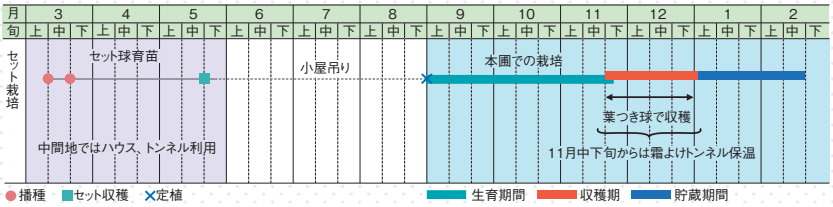
↑セット栽培による年内出し専用種「シャルム」。

「**シャルム**」はセット栽培専用品種で、分球しにくく、そろいや肥大性にすぐれる品種です。年末の、貯蔵タマネギや北海道産のタマネギが多く出回っている時期に、フレッシュな新玉を出荷することができます。

播種は３月中下旬で、５月下旬に直径2.5～３㎝ほどのセット球を掘り上げます。夏場は風通しのよい冷暗所で貯蔵し、８月末に圃（ほ）場に定植します。収穫は11月中下旬から可能となり、倒伏した株から数回に分けて収穫します。

↑セット球を作るには３月に播種し、５月に直径2.5㎝ほどで掘り上げる。

「シャルム」（セット栽培）の作型



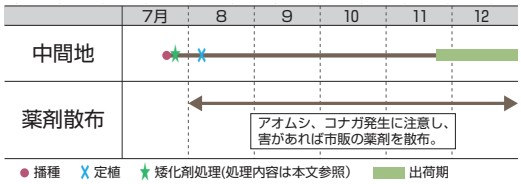
切り花を出荷するなら

売上アップのための

直売所出荷ワークショップ

葉牡丹「F1フェザー」シリーズ

タキイ研究農場　前田（まえだ）　裕行（ひろゆき）



葉牡丹はキャベツやブロッコリーと同じ仲間でBrassica oleraceaに属します。1700年初頭にオランダナの名で日本に伝わった食用ケールを元に改良が続けられ、現在では切り花用の高性種の育成が進み、花壇品目のみならず切り花品目としても利用されるようになりました。

今回ご紹介する「フェザー」系は、葉縁が切れ込む葉形で従来の丸葉系とは違った洋風の雰囲気があり、クリスマスシーズンの花材としても幅広い利用が期待されます。また、この品種は矮化剤の適性もあり、ポット仕立てでもコンパクトにまとまります。

品種特性

紅系品種は草丈が伸びにくい特性がありますが、「フェザーレッド」は高性切葉の紅色で、草丈もよく伸び、立性でヘッドがコンパクトに仕上がります。発色が鮮明で、外葉色の緑と着色部の紅とのコントラストが明瞭です。

「フェザーホワイト」は高性切葉の白色品種で、中心部の桃色が濃く、着色部の白色とのコントラストが鮮明です。「フェザーレッド」より草勢は強く生育旺盛です。

栽培基礎講座

タネまき

7月中下旬に播種します。200穴トレイに1粒まきします。発芽適温は20～25℃で2～3日で発芽します。

育苗

発芽がそろったら、しおれない程度に潅水は控え、日当たりと風通しのよい場所で徒長させないように管理します。徒長を軽減する目的で、播種後5～7日目（本葉展開時）に矮化剤「家庭園芸用ビーナイン水溶剤」の200～300倍液を噴霧器で植物全体にかかるように散布します。

定植

定植は日当たりと排水のよい場所を選び、過湿になりやすい場所では高畝にするなどの工夫をします。施肥量は土壌条件で異なりますが、速効性の肥料を10㎡当たりチッソ成分で80～120g施用します。圃（ほ）場に残肥が多い場合は無肥料にします。

播種後20日前後で、本葉3～4枚が定植適期になります。定植は遅れないように注意し、日差しの強い日中を避けて行います。茎が真っすぐになるように植え付け、子葉が土に埋め込まれない程度にやや深植えにし、倒れないよう株元をよく押さえます。定植間隔はあらかじめ畝に張った、12×12㎝または10×10㎝のフラワーネットのマス目に1～2本植えとします。

定植後の栽培管理

潅水は活着まで十分に行い、茎の伸長を促します。植物体の伸長に合わせてフラワーネットをこまめに上げ、茎が曲がらないようにします。茎の太りすぎや大葉になるのを防ぐため、草丈30㎝ごろから葉かきをします。目安としては、草丈の3分の1程度の葉を残し、下部の葉はすべて摘葉します。この時期までに、茎が太く葉が大きくなるようであれば元肥の量が多いと考えられ、早めに葉かきし草勢を抑えます。順次3～4回ほど、生育に合わせて葉かきし、茎の伸長と太さを調整します。

出荷調製

葉牡丹は気温が低くなると着色します。最低気温が12～13℃ぐらいに下がって、約1カ月を経過してから着色します。出荷の約1週間前に最終の葉かきを行い、外葉を6～8枚残して草姿を整えます。

ブリーダーこれがおすすめ！

F1フェザー ホワイト

F1フェザー レッド

肥培管理のポイント

栽培後半（11～12月）は着色不良や色戻りを避けるために肥料を抑え、着色後は、草勢を維持する程度の肥培管理にとどめます。

●元肥
速効性肥料でチッソ成分10㎡当たり80～120gを目安とする。残肥が多い場合は初期の過繁茂を避けるため無肥料にし、追肥で対応する。

●速効性肥料
生育初期～中期に草丈、葉数を確保する。

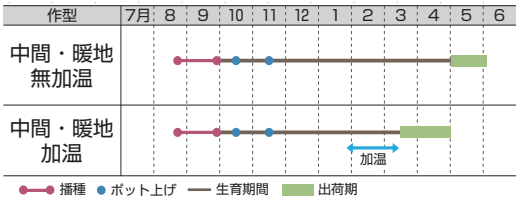
●液肥
初期の生育不良時の対応策。
生育後半（着色後）の下葉の維持。

鉢花を出荷するなら

売上アップのための
直売所出荷
ワークショップ

カンパニュラ パーシシフォリア「F1タキオン」シリーズ

タキイ長野研究農場 富士見試験地　田中（たなか）　秀典（ひでのり）



カンパニュラパーシシフォリアは葉が桃の葉に似ていることから、モモバギキョウとも呼ばれ、鐘状のかわいらしい花を咲かせるキキョウ科の植物です。ヨーロッパ～シベリア原産で耐寒性が強く、強健性もあり栽培しやすいのが特長です。

カンパニュラは元々、低温にあたりその後の高温と長日で花芽分化するため、春まき二年草もしくは多年草として扱われる植物でした。現在では品種改良が進み、一年草タイプの園芸種が栽培されるようになっています。また、切り花向けの高性種から花壇苗向けの矮性（わい）種などがあります。

品種特性

今回ご紹介する「F1タキオン」シリーズは秋まきで翌春に開花する一年草タイプの中矮性種で、従来品種に比べ矮化剤なしでも草丈40㎝と株がコンパクトにまとまり、分枝の動きも早く1株から5～6本の枝が立ちます。花径は5～7㎝と従来品種より大輪で、浅いカップ状の花型です。花色はブルーとホワイトの2色です。耐寒性は強いですが、凍らない程度の温度管理をすることで5月から出荷が可能です。涼しげな花色の花苗を直売所に出荷されてはいかがでしょうか。

栽培基礎講座

タネまき

一般的には、8月下旬～9月ごろにタネをまきます。200～288穴のセルトレイに2～3粒まき、好光性種子なので厚く覆土せずに種子が隠れる程度に薄く行います。発芽の温度は18～20℃で、10～15日で発芽します。

特に幼苗期は高温を嫌うので、日中は日除けをするなどして涼しく管理しましょう。

ポット上げ

ポット上げの目安は播種後6～8週で本葉3～4枚程度の時に行います。培土はpHおよび肥料分が調整されている市販のものを使うとよいでしょう。9～12㎝ポットに1株植えや15～18㎝の鉢に3株植えでボリュームを出して出荷することも可能です。さらに品種を混ぜて播種し、青と白のコントラストをつけた苗を出荷してみてはいかがでしょうか。

栽培管理

「F1タキオン」はポット上げ後に株をある程度張らせた状態で低温（5～7℃）に1カ月程度あてなければ花芽分化しないので、年内中に充実した株を作ります。株の大きさの目安は9㎝ポットを覆うように葉が展開する程度です。低温期は土が凍らない程度に加温もしくは保温します。

温度管理は凍らない程度の加温で、5月上旬からの開花になりますが、無加温では6月からの開花・出荷となります。2月から10℃加温を行うことで3～4月の早期出荷も可能です。

高温・多湿を嫌うので、日中の暑い場合は換気を十分に行い、土の表面が乾いたらたっぷり潅水します。肥料切れを起こすと葉の色が薄くなるので週に1度の液肥もしくは固形肥料の追肥を行いましょう。

1株からより枝を出して出荷したいときは、中心から上がってくる茎を一度株元でピンチすると側枝の動きが促されるので、1株から6本以上の枝数に増やしてボリュームのある株に仕上げることもできます。

病害虫対策

主な病害は多湿条件で発生する灰色かび病や立枯（たちがれ）病があります。殺菌剤などによる防除や、日中の換気を十分に行ってください。

害虫はアブラムシやスリップスなどの発生に気を付けます。ハウスサイドを寒冷紗などで覆って飛来を防ぎ、定期的な殺虫剤の散布で防除します。

出荷

3～4月では各枝5～7輪の7分咲きで出荷します。5月出荷では5分咲き程度で出荷するとよいでしょう。

ブリーダーこれがおすすめ！

植物名：カンパニュラ パーシシフォリア
学　名：*Campanula persicifolia*
分　布：ヨーロッパ～シベリア
植え付け：土壌／適湿　草丈／40～50㎝
　　株張り／20～25㎝
生育条件：日光／日当たりを好む
耐暑性：弱
耐寒性：強

F1タキオン ホワイト

F1タキオン ブルー